

和顔愛語

寺報

令和6年3月号

3

月から4月にかけては陽気のいい日も多く、花を楽しみながら外を歩きたくなりますね。

さて今から800年以上前の春、浄土宗を開いた法然上人は比叡山で大きな転機を迎えました。承安5（1175）年、法然上人43歳のとき、お念仏の教えに身を捧げる決意をし、浄土宗を開くことになったからです。今こそ浄土宗は全国に約7千もの寺院を抱える大きな宗派ですが、そのスタートは法然上人の確信に遡ります。長年、自身が救われる道を求めて経典を読み続けていた法然上人は、この年、それまでの積み重ねが実り、「阿弥陀様に帰依して、南無阿弥陀仏とお念仏をとなえれば誰もが極楽浄土に往生できる」と説いた善導大師の教えの尊さに深く感じ入り、それまで行っていた様々な修行をやめて、お念仏だけをとなえ続ける道に入りました。

する高名な僧侶でした。人脈も豊かで、関白の九条兼実や尼將軍といわれた北条政子などとも交流がありました。その上人が信じたお念仏の教えは、あつという間に多くの信者を得て広がっていききました。当時、大きな力をもった比叡山や奈良の大寺院が、念仏をやめさせてほしいと朝廷に訴えた記録も残っています。それにも関わらず法然上人の教えは広まり続けます。上人の南無阿弥陀仏への確信が、多くの人を動かし、時代のうねりを生み出したのです。

今年はその法然上人の大転機から数えて850年目。4月には上人が浄土宗を開いたことを讃え、京都の総本山知恩院をはじめ、大本山増上寺やそのほかの本山で開宗850年の記念法要が営まれます。また東京国立博物館を皮切りに、京都と九州の国立博物館でも「特別展 法然と極楽浄土」が開催されます。ぜひ足をお運びいただき、うらかな春の日を、法然上人に思いを馳せながらお過ごし

が、浄土宗のはじまりです。法然上人は『徒然草』や『平家物語』にも登場する、当時を代表



比叡山内青龍寺。かつて法然上人はこの地にあった経蔵にて、開宗のきっかけとなる一文と出会った。

浄土宗開宗850年まもなく開幕

総大本山で記念法要・特別展も

生活の中にある

仏教の言葉

②

私達が日常で使う言葉には、仏教に由来する言葉も多くあります。なかには、仏教ではまったく意味が異なるものも。このコーナーでは、そんな言葉を紹介していきます。

挨拶

日常のさまざまな場面で使う挨拶。その一つ一つにも意味があるといわれています。例えば「おはよう」は「お早くからご苦労さまです」、「こんにちは」は「今日は、ご機嫌いかがでしょうか」を略した言葉というように、それぞれの「挨拶」には、相手への気づかいの気持ちが込められているのです。

さて、この「挨拶」という言葉も仏教に由来するとされます。仏教における挨拶は、「相手のさとの深さをはかるため、問答をし



かけること」を指す言葉です。中国の禅宗寺院では、師が弟子との出会い頭に質問をすることが

よくありました。そのときの弟子の返答によって、どれくらい修行が進んでいるのかを見極めていたのです。

この「挨拶」が中国から日本に伝わり、次第に「話しかけ、それに応える」という意味だけが取り上げられるようになっていき、室町時代には現在使われる「人と会ったとき、別れるときなどに取り交わす儀礼・応対」の意味になったとされます。

日々の繰り返しの中でつい、情性で行ってしまいがちな挨拶。しかし、いつも行うからこそ、相手を見て、それぞれに込められた意味を考えてほしいものですね。

覚悟

人生の中では、正解がわからなくとも大きな決断をしないとイケない場面もあります。そのような局面では、判断材料を集めて熟考することも大事なことです。時に「覚悟」を決めて

行動してみることも大切。そのように腹をくくって挑んでみると、無欲のおかげか、案外うまくいくこともあります。

この「覚悟」は「覚」と「悟」という、ともに迷いや執着を離れた状態である「さとり」を意味する字を組み合わせた言葉です。正確には、それぞれ「真理に対する」目覚め」「迷いがさめる」などを表しています。ですから、仏教語としての覚悟は、「真理をさとる」「(仏の)さとり」という意味となります。この迷いや執着がない状態から私たちが現在使っているような、「決心」や「明らかにする」の意味で使われるようになったといわれます。

情報社会といわれる現代では、どんな決断をするにも、判断材料が身近に数多くあり、どの情報を選べばいいかわざされてしまいがち。そんなときは、自分のすべきことをしっかりと見極めて、「覚悟」を決めて臨みたいですね。

伝えたい言葉 (14)

一心専念弥陀名号

行住坐臥

不問時節久近

念念不捨者

是名正定之業

順彼佛願故

(開宗の文)

〈書き下し〉

一心に専ら弥陀の名号を念じて行住坐臥に時節の久近を問わず。念念に捨てざる者、これを正定の業と名づく。かの仏の願に順ずるが故に。

〈現代語訳〉

一心に専ら南無阿弥陀仏となえて、何をしているときでも、長時間でも短時間でも、となえ続けることを、往生のための正しい行いと呼びます。これは阿弥陀仏の本願に基づくからです。

この言葉は「一心専念の文」と呼ばれ、中国は唐の時代の僧侶である善導大師(613-

681)が書いた『観経疏』という書物の一文です。大師の生涯については不明な点もありますが、当時の長安で有名な高僧だったようです。また善導は三蔵法師として有名な玄奘と同じ時代を生きた人物です。三蔵法師にゆかりのある大慈恩寺で善導が亡くなったという伝説もあり、もしかしたら交流があったのかもしれない。

『観経疏』は正式には『観無量寿(仏)経疏』といい『観無量寿経』というお経を解説した書物です。当時の中国では一般の人が極楽浄土に生まれ変わることはできないと考えられていましたが、善導大師はそのような理解を一新するため『観経疏』を記しました。そして、極楽浄土に生まれ変わるためには「念仏」が最もよい方法であ

ることを提示します。念仏は、もともと仏様の姿をイメージする瞑想修行の一つですが、善導は「称念」という「南無阿弥陀仏」を声に出してとなえる念仏を重視しました。これはそれまでにはない革新的な解釈でしたが、その革新性が中国で広まることはありませんでした。この『観経疏』は日本に伝わり、法然上人をはじめとする多くの学僧に読まれました。法然上人が、誰よりもこの書物の革新性を深く理解し、「一心専念の文」に大きな感銘を受け、浄土宗を開

くことになりました。それゆえ冒頭の文を「開宗の文」といいます。これは法然上人の人生を変えた一文なのです。

法然上人が43歳でこの一文を理解してから20数年が経過し、60代半ばとなったある夜、夢を見ました。そこには上半身は墨染の衣を身につけ、下半身が金色に輝く僧侶が表れました(イラスト)。上人がその僧に名を尋ねると「私は善導だ」と答え、「あなた専修念仏の教えを広めているため、ここに来た」と続けたそうです。法然上人はこの夢を見てから、善導大師が阿弥陀仏の化身だと確信し、さらに善導大師への信仰を深めました。



二祖対面時のイメージ。善導大師(左)、法然上人(右)

今年(2024年)は浄土宗が開かれて850年の節目の年。善導大師が残された言葉を心に留め、法然上人の教えに従って、南無阿弥陀仏のお念仏をとこなえる時間を大切にしていきたいです。

Q&Aですぐわかる! なるほど浄土宗

⑮

身近な仏教の疑問をQ & A
形式で説明します!

—浄土宗が850年も続いた経緯
を教えてください。

—浄土宗は承安5(1175)年の春、法然上人が善導大師の教えに従い、「専修念仏」の道に入った時を開宗とします。専修念仏とは「専ら南無阿弥陀仏となえる念仏のみを修行すること」です。

この教えは、その革新性に法然上人の人柄があいまって瞬く間に広がっていききました。その広がりによって、天台宗や法相宗など当時の伝統教



団が危機感を抱き、朝廷に念仏の教えを禁止してほしいという嘆願書が出るほどでした。

どでした。

今の浄土宗は、京都での騒乱のがれ九州から関東に伝わった法然上人の弟子達の流れを継承したものです。それが江戸時代に花開きます。それは松平家の菩提寺が浄土宗であり、そこから徳川家康が現れたからです。家康は浄土宗の庇護者であり、將軍となってからは江戸にあった増上寺を徳川家の菩提寺の一つとしました。さらに京都知恩院も徳川家の支援によって大きくなっていきます。その後、知恩院には宮門跡とよばれる皇室出身の住職が置かれるようになり、名実ともに総本山としての地位を確立しました。

明治維新以降の廃仏毀釈や戦後の混乱は浄土宗にも様々な影響を与え、教団は二つの派閥に分裂しましたが、開宗800年を迎えるにあたり再統合。一度分かれた教団が再び合併するのはとても珍しいことでした。そして、今年が開宗850年、お念仏の流れは時代や場所を超えこれからも継承されていくことでしょう。

浄土宗開宗 850 年 ^{ぎよき} ぜひ御忌法要にご参拝ください。

4月には総大本山で法然上人を讃える法要(御忌)が大々的に開催されます! 御忌は浄土宗の宗祖、法然上人の忌日法要のことです。本年は法然上人のご恩徳と一緒に讃えましょう。下記は大本山増上寺の御忌の日程です。この勝縁にぜひお参りください。

★大本山増上寺(東京都港区芝公園4-7-35)
4月2日~9日

詳しくは右記
QRコードから
ご参照ください



普照山 正定寺

■所在地
〒111-0036 東京都台東区松が谷2丁目1-2
■TEL: 03-3841-1853 ■FAX: 03-3841-1777

紫金山 静蓮寺

■所在地
〒110-0004 東京都台東区下谷1丁目12-21
■TEL: 03-3843-4034 ■FAX: 03-3843-3442

母冲山 清見寺

■所在地
〒100-2211 東京都小笠原村母島字元地122

私たちの宗旨



名称: 浄土宗
宗祖: 法然上人(1133-1212)
開宗: 承安5年(1175)
本尊: 阿弥陀如来
教え: 阿弥陀仏の平等のお慈悲を信じ「南無阿弥陀仏」とみ名を称えて、お浄土に生まれることを願う信仰です。